opusdei.org

待降節黙想:12月24 日

黙想のテーマ:「イエスの来 臨を感謝する」「神の恩恵が 表された」「待ち時間終わ る|

イエスの来臨を感謝する

神の恩恵が表された

待ち時間終わる

「ほめたたえよ、イスラエルの神で ある主を。主はその民を訪れて解放

された | (ルカ1・67)。9ヶ月の沈 黙の後のザカリアの言葉です。この 替歌は、神は何と善き方であること か、と要約できるでしょう。教会 は、待降節をこの福音で締めくくろ うと望んでいます。この聖なる人 は、9ヶ月の無言期間を罰として受 け入れていたのではありません。全 く逆に、贈り物として感謝しまし た。息子ヨハネが告げ知らせるであ ろうことを、ふさわしく準備する素 晴らしい機会になったのですから。 神は、毎年、私たちにも同じような 贈りもの、待降節を与えてください ます。この準備期間を最高に活用で きたでしょうか、どうでしょう?い ずれにしても、自分が貧しい馬小屋 だと思えるとしても、主が私たちの 心で働かれたのですから、神に感謝 することは、私たちに大いなる善を もたらしてくれるでしょう。神は、 私たちの馬小屋、つまり心を特別な 場所として準備されたのです。

最も良いのは、ご降誕の夜、羊飼い の一人に起こったようなことを経験 することでしょう。「すてきな話が 言い伝えられています。イエスがお 生まれになったとき、羊飼いたちは さまざまな贈りものをもって馬小屋 へと駆けつけたそうです。それぞ れ、自分の持っているものを携えて 行きました。労働の実りを届けた人 もいれば、何か貴重なものをもって 行った人もいました。皆が何かしら の贈りものを携えている中、何も持 たない羊飼いが一人いました。その 人はとても貧しく、差し出す贈りも のがなかったのです。他の人たちが 競って贈りものを差し出す中、彼は 離れたところに立って恥ずかしそう にしていました。やがて、聖ヨセフ と聖母は、すべての贈り物を受け取 るのが大変になってしまいました。 とくにマリアは幼子を抱きかかえて いて大変でした。そして何も持って いないその羊飼いを見て、マリアは 近くに来るよう頼み、その腕に幼子

イエスを預けます。幼子を受けのを受けます。幼子をもの羊飼いは、身に余るものだ、身に代でのだももとででれたのだがない。のもともでいた。ですられていかが愛されているというが変されている。これでははいいでははいいでははいい。これでははいいです。これではなかったのですー III。

「あなたの手には何もないと思えたり、あなたの心に愛が足りないと感じたなら、今夜はあなたのためにあります。神の恵みが現れました。あなたのいのちをさらに輝かせるためです。その恵みを受け取ってください。そうすれば、クリスマスの光はあなたの中で輝き続けるでしょう」

図。私たちの内的戦いや使徒職の実りについての、個人的な見解の遥か彼方を眺めると、事実、私たちの手には何もないことが分かります。とは「まっ」で、動めていまっと、「あの冷たい孤独の中で、聖母といるもの、イエスが好み、イエスが好み、イエスが好み、イエスが好み、イエスが好み、そ差し上げましょう」 図。

多分、これまでに、手一杯の善行、 つまり聖性と周りの人たちへの愛情 があるなら、落ち着いていることが できるでしょう。しかし、いろいろ な望みを達成できないことが、たび たびあるものです。私たちの生活 は、約束や片づけるべき事柄などで 織り成されており、気づかないうち に時間が過ぎ去ってしまいます。大 丈夫です。今でも同じように馬小屋 に近づくことができるのです。そこ で喜びと共に迎え入れられるでしょ う。そして、私たちの人生のこの時 期に、聖母と聖ヨセフは、喜びに満 ちて私たちを迎えようと待っておら れたことを、知ることになります。

救いが訪れます。ほんのしばらく待 たなければなりませんが、もう喜び があふれ出しています。聖ベルナル ドが私たちの切望を再確認していま す。「それゆえ、今、私たちの平和 は約束ではなく送られてきます。遅 れずに与えられます。予言ではな く、実現されます。御父は、いつく しみに満ちた袋と同じようなもの を、この世に送られたのです。袋と 言いましたが、この袋はご受難に よって破られるでしょう。それは中 に入っている私たちの贖いの代償を 蒔き広めるためです。その袋は小さ くても、中身はいっぱいです。実際 に、幼子が与えられました。しか し、この子は神でもあるのですし

[4]0

ザカリアの言葉は、私たちの救いの 成就以前の最後の預言です。神は暗 闇で生活している私たちに同情し、 救うために来られます。私たちにそ れを受ける値打ちがあるかどうかを 判断することは、なさいません。私 たちは、この義人で信心深いイスラ エル人の手を通して、神との親密さ を深めたいと望んでいます。「これ は我らの神の憐れみの心による。こ の憐れみによって、高い所からあけ ぼのの光が我らを訪れ(る) | (ル カ1・78)。これ以上に活き活きとし た表現はありません。

私たちには、偽りによってこの特権を失うことがあり得ます。「わたしたちはさまざまな哲学と行事と仕事のなかで暮らしています。わられらのものではこれらのせいで飼います。これらのせいで飼いながでの道のりはほど遠いものになすでいます。神は、さまざまなけなけるしたちを導き、助けなけ

ればなりません。それは、わたしたちが自分の考えや仕事の山から抜け出し、神に至る道を見出せるためです」⑤。この最終段階を、聖マリアの助けのもとに歩んで行くことにしましょう。多分、聖母はベツレヘムまでロバの上だったことでしょう。

聖ヨハネ・パウロ二世の言葉を使う と、今晩、「神が歴史の中に入って こられます。人類の法に服されるの です。過去が閉じられます。つまり 旧約の待望の時代が主のご降誕で幕 を閉じます。未来が開かれたので す。恩恵と神との和解の新約です。 それは、新しい時間の新たな"開 始"です」で、私たちは、ホールに、 麦わらや産着などで馬小屋を準備し ながら、マリア様に同伴します。御 子のために不足するものがないよう にと、愛情を傾けて作業を続けま す。これは、私たちが大好きな役目 です。そして、両方とも私たちに必 要だと思われたことがわかります。

- [1] フランシスコ、説教、2019年12 月24日。
- [2] 同上。
- [3] 聖ホセマリア『神との対話』"絶 え間なく祈る"2番。
- [4] 聖ベルナルド「ご公現について の最初の説教」1-2。
- [5] ベネディクト十六世、説教、 2009年12月24日 (霊的講話集2009, p. 400)。
- [6] 聖ヨハネ・パウロ二世、説教、 1979年1月1日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-taikou-24nichi/(2025/12/18)